

## 金曜コラム - 鎮川選手村と「根」

- ジョン・ウォンス (スポーツ評論家・聖公会大教授)

「根付く」という表現がある。「根が抜かれた」という表現もある。このような表現が植物学の用語だけではない事は近現代史 100 年を介して知っている。朴ギョンリの<土地>は、旧韓末 (訳注：大韓帝国時代をさすが朝鮮末期まで含める場合もある) の「根が抜かれた」人々の話を扱っている。この長い長江大河の冒頭は、1897 年秋夕 (訳注：チュソク、旧暦 8 月 15 日) だ。「カササギが垣根に囲まれた柿の木に来て朝の挨拶をする前に、無色の服にリボンの尻尾を伸ばした子供たちはソンピョン (訳注：松餅、チュソクにご先祖様に捧げみんなで食べる) を口にくわえ、村道を歩き回る秋夕の風景が始まるのだが、いわば長いこと同じ村に「根を下ろして」生きる風景である。

そうするうちに国も失って土地も失い、北間島 (訳注：北朝鮮の北東に位置する地域。間島パルチザンの歌というプロレタリア文学作品で目にした方もいるでしょう) に移住する。そこに「根を降ろそうと」するが容易ではない。普段、クワを一度も握ったことのない金フンジャンも北間島の乾いた地に這いつくばる。金フンジャンを吟風弄月 (訳注：ぎんぷうろうげつ、自然の景色を題材にして詩を作ったり詠んだりすること) する高潔な士を内心けなしていた人々が、その姿を見て目頭を濡らす。いくら亡国流民の身の上であっても、一人くらいは床に腰掛けて「天地玄黄」 (訳注：中国の千字文の一節。天地玄黄(テンチゲンコウ)宇宙洪荒(ウチュウコウコウ)=天は黒く地は黄色、宇宙は果てしなく広い、で始まる。中国六朝時代の皇帝である武帝の命を受けて重複しない 1000 の漢字を 250 の 4 字句に綴った千字文は文字を収得するための初級教科書として用いられていた。) をしてこそ人の住む形であり、金フンジャンさえクワを握ったのだから、誰もが「根を抜かれた」身上ではないか。

ファン・ソギョン、ユン・フンギル、チョ・セヒなどが産業化時代の「根を抜かれた」人々を描写したことは、今の教科書に掲載されているように「歴史」となった。ファン・ソギョンの<サンポに行く道> (訳注：邦題「森浦に行く道」) は、その旅の終わりに達して電車が到着したにもかかわらず、ジョン氏とヨンドルは「足が進まなかった」。彼らは「心の拠り所を失ってしまったから」である。

(訳注：ファン・ソギョン=黄皙暎 21 世紀に入って欧米で高い評価を受け著作の翻訳が進んでいる。ノーベル文学賞候補として有力視される韓国作家の一人。 ユン・フンギル=尹興吉 1970 年代から 80 年代を代表する作家であり、その作風はリアリズム主義と言われる。時代の矛盾をついた洞察力のある筆は日本でも紹介され注目を受ける。 チョ・セヒ=趙世熙 1970 年代韓国社会の大きな問題だった貧富と労使の対立を劇的に提示した小人シリーズが代表作、和訳題名『こびとが打ち上げた小さなボール』) それでは今日、このような風景はすべて消えただろうか。どうだろう、壮大な建物と豪華な光の後ろに一歩だけ入ると、すべてワンルームであり、考試院である。(訳注：考試院、もともとは受験生のための安宿。寝るためだけの狭い空間で共同トイレが一般的) ファン・ソギョンやチョ・セヒ以降、そのような小説は消えたようだったが、残念ながらパク・ミンギョ、キム・エラン、ピョン・ヘヨン片恵英の小説は、この巨大都市に根を下ろせなかった「私たちの中のディアスポラ」を扱っている。

(訳注：パク・ミンギョ 2003 年韓国の文壇にデビュー、新鮮な文体と奇想天外な発想で作品を発表し、

和訳『カステラ』、『亡き王女のためのパヴァーヌ』、『ピンポン』など。キム・エラン=金愛爛 『ノックしない家』で大山大学文学賞を受賞。現代韓国の若者たちの生き方に誰よりも強い関心を持っている。ピョン・ヘヨン=片恵英 人間の代表的な不安と恐怖の中で咲く人生を文章化した「アオイガーデン」は愕然とするほどグロテスクな文体)

(訳注：ディアスポラ=パレスチナ以外の地に移り住んだユダヤ人およびそのコミュニティを指す。本土を離れて他国に生きる共同体の集団、あるいは移住そのものを意味する。)

毎月「500に30」をやっと出して(訳注：演劇の題名。保証金500万ウォンで毎月の家賃30万ウォンの入居者がお金の前で屈服するしかない生活を描いている)、根を抜かれたまま生きていく人生だ。パク・ミンギョは<甲乙考試院在留期限>でこのように書いた。「家族は散らばった。両親は田舎を、兄は力仕事を、私は私なりに友達の家を転々とした。」その後、考試院に行くことになる。荷物を運んでいた友人が「ここに人が住めるのか？」とささやき、主人公は強烈な孤独を感じる。孤独！

だから「根」とは関係だ。根を下ろすことは毛細血管のような人生の関係を築くという意味である。根が抜かれるとは、その関係が断ち切られることを意味する。苦しかったり気に病んだり寂しいとき、文字を送る人がなく、声を聞いてくれる人がいないこと、そのひどい孤独！それが「根を抜かれた」人生だ。

鎮川選手村に行った。選手村施設を見学してシン・チョン選手村長を含め、何人かの指導者や選手たちと会話を交わした。果たして全体的に施設は壮大で、詳細的で技術的な事項も繊細によく構成されていた。

シン・チョン選手村長をはじめとする行政関係者たちの思いやりのある配慮を感じることができた。何よりも指導者と選手が、選手村長同席にもかかわらず彼らなりの現実的な苦情や改善点を闊達に述べる姿に、昔の生活文化と大きく変わったことを感じることもできた。去る2月初めに就任したシン・チョン選手村長が以前の訓練施設とは異なり、選手村をより活発に変化させようとする努力が少しずつ実践されている面であった。さすがに「運動する機械」とか「家族や友人と離れて」のような言葉も現場を訪れた革新委員ではなく、選手村の指導者と選手が自ら吐露した言葉という点で、それこそ韓国のエリートスポーツは、新しい文化に変貌していることを切実に感じることもできた。

「売店があったらいいですね。」

太陽の光が明るく入ってくる素敵な選手専用食堂で一緒に食事をし会話を交わした中で、ある選手が話した。考えてみれば、これ程の国際的な施設に売店一つないのかと思ひ、また売店がすぐに急ぐ施設かとも思うが、実はこの小さな要求一つは、私たちの選手たちの将来と関連があるのだ。売店があるということは自由に個人的な時間を持つことができるもので、売店を同心円にして選手村の指導者と選手が散らばっても集まる可能性があるのだ。このとき売店は、一日中汗を流してトレーニングした指導者と選手が一瞬でも情にあふれ素朴に「関係」を結ぶ空間になる。

さて売店だけだろうか。国がいわゆる「国威宣揚」を目標に、各種目の中で最も優れた選手たちを一箇所に集めて訓練をさせるとしたら、それは当然のことながら、彼らの生活の根が美しく下りるようにしなければならない。国が国の目標のためとあって、家族があり、生活があり、関係のある指導者たちの現在の生活の根を抜いてはならない。多分22世紀を見られる若い選手たちの未来を根こそぎ振り落としてはならない。寂しい時友人に電話をかけて訴えられなければならない、息苦しいときはいつでも両親に会って甘えられなければならない。他の種目の選手や他の分野に進んだ友達とも付き合わなければならない。関係がすなわち根だ。

だから革新が必要である。壮大で洗練された施設は適切に備えられている。今、先端のスポーツ科学で選手を教え、真に人間関係で選手村の生活が行われるようにしなければならない。選手村のすべての関係者はまた、そのような未来を夢見ている。ある関係者の言葉のように、今は「クジラの争いでエビの背が裂ける（訳注：自分たちの争いで他人が被害を受ける意）」という微妙な状況だが、指導者の生活の根が維持されて若い選手たちの様々な生活の関係、すなわち根が広く下される、まさに最高の選手たちが「国家代表」というタイトルにふさわしく、幅広い社会的関係の中で尊重されて「根を下ろして」生きていくべきである。

\*この記事は2019年4月30日の京郷新聞オピニオンコラム正園数のオフサイドに掲載された記事です。

[http://news.khan.co.kr/kh\\_news/khan\\_art\\_view.html?artid=201904292038005&code=990100](http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?artid=201904292038005&code=990100)

## 01 KBS 2019.5.1

### 【 警察、「ボクシング大会八百長疑惑」体育学院長送致 】

体育特技者の随時選考合格のために高校生の娘をボクシング大会に出場させて勝負操作をした疑いで体育入試学院長が検察に引き渡されました。

京畿南部地方警察庁知能犯罪捜査隊は業務妨害、背任贈賄未遂、国民体育振興法違反などの疑いで48歳の体育学院院長ら3人を起訴意見で非拘束送致したと今日（1日）明らかにした。警察によると、院長などは院長の娘を2015～2016年の3つのボクシング大会に出場させた後、八百長を介して1つの大会で優勝を操作した疑いなどを受けています。

調査の結果、院長の娘はボクシングを一度もしたことがなかったし、相手選手のコーチに放棄を頼む方法で勝負操作をしたことが明らかになりました。院長の娘が優勝した大会は出場者が2人だけなので、一度の棄権勝で優勝を獲得しました。院長はボクシング大会で女子部は階級別選手層が薄く大会出場者が多くないことを狙ったものと調査されました。

院長の娘は他の2つの大会では準決勝から行いましたが、相手選手が風邪などを理由に棄権して決勝に上がった後、相手選手のコーチにお金をやるとから放棄してくれと頼んだが断られました。この大会では、院長の娘が決勝戦を棄権して準優勝を獲得しました。

院長はこれらの成果で娘をソウルの有名私立大学に体育特技者随時選考で入学させようとしたのですが、合格する事には失敗しました。警察はボクシング大会で八百長が行われているという情報を入手し、捜査に着手して院長などの犯行を明らかにしました。

警察の捜査結果について院長の法律代理人は警察が明らかにした被疑事実は、院長を陰湿な攻撃をするための虚偽の情報提供に基づくものだとし、院長は他のコーチに棄権を強要・要求した事実はないと明らかにしました。法律代理人は続いて、仮に警察が明らかにした被疑事実によっても法理上の犯罪が成立すると見ることはできないと、このような悔しい事情を検察に詳細に明らかにして誠実に捜査に臨む方針だと付け加えました。

出典：<http://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=4191852&ref=A>

## 02 オーマイニュース 2019.5.1【大田市体育会生活体育指導部の記者会見... 「正規職転換」および「低賃金構造改善」要求】

ゲートボール、バドミントン、卓球、エアロビクス、ヨガ、フィットネスなど大田市民の健康福祉のために、様々なスポーツ活動を支援している生活体育指導者が、雇用安定と処遇改善を促して立ち上がりました。

民主労総大田世宗地域サービス労働組合大田市体育会生活体育指導支部（支部長、金ヨンドン）は30日午前、大田市役所北門の前で記者会見を開き、「1年ごとに再契約できるかどうかで気をもむ生活体育指導者を正規職に転換して、賃金を含む劣悪な処遇も改善しろ」と要求しました。大田市体育会と労働契約を結んで働いている生活体育指導者は43名です。大田地域5つの区の体育会と契約を結ぶ指導者を含めると120人に達し、全国的には2700人に達します。

彼らは住民センターや学校、福祉館、老人ホーム、体育館で無料で市民の生活体育活動を助ける仕事をしています。義務的に一日に3箇所以上で授業を進行しなければならない、勤務時間は午前9時から午後6時までです。しかし、彼らは毎年労働契約を再度しなければならない非正規職労働者です。賃金も最低賃金レベルで、大田市が定めた生活賃金にも満たないというのが彼らの主張です。さらに授業に必要な材料や道具を購入するときは自費を使用し、移動のための燃料費も支援されていません。このような劣悪な労働条件は、彼らをいつも雇用不安に置き、自己啓発やプログラムの研究・開発等を困難にしています。結局、その被害は学生や市民に再び戻ってくるということ。これに彼らは労組を作って「雇用の安定」と「処遇改善」を要求して立ち上がりました。

彼らはこの日の記者会見文で「生活体育指導者制度は、健康へのニーズが高まり始めた2000年8月に施行され、各自治体の実情に合わせて様々なプログラムが用意され、急速に市民の間に入り込んで現在までに正常に運営されている」とし、「しかし、これらの成功には生活体育指導者の涙とため息が隠れている」と明らかにしました。続いて「この指導者たちは、いまだに毎年労働契約を締結しなければなりません。このような雇用不安で、長期的なプログラム作りは夢のまた夢」とし「プログラムに参加する市民の回数が増えるほど、よりレベルの高い要求が多くなるのに、翌年授業を進められる保証がない状況では、単純なプログラムだけ繰り返すだけで、市民のニーズを適切に満たすことができない状況だ」と主張しました。彼らはまた「さらに低賃金による生活苦は生活体育に専念できる意志を奪っています。一日最低3箇所以上を訪問して授業をしなければならないが、現在の低賃金構造ではガソリン代さえ厳しい実情」とし「それだけでなく、授業のための材料や道具の購入費もただ1ウォンも支援されていません。1年目の労働者も10年目の労働者も同じ基本給で6万ウォンの勤続手当が付くだけ」と明らかにしました。また「このような構造に起因する被害はそのまま大田市民に戻るしかありません。指導者の献身的な努力のおかげで、1986年19.4%に過ぎなかった国民生活体育活動参加率は、2017年現在、60%にまで拡張された」とし「大田市民の健康の権利、健康福祉のために指導者の雇用安定と処遇改善は、必ず改善されるべきだ」と主張しました。

彼らは最後に「ムン・ジェイン大統領は候補時代、生活体育指導者も正規職転換の対象職種に含むと公約しました。しかし、今までどの自治体、どの政府省庁でも正規職転換計画を提示したところはない」とし「私たちは授業を続けたい。健康な大田市民の笑い声を聞きたい」と付け加えました。この日、糾弾発言をしたヤン・ボギョ大田世宗地域サービス労働組合委員長は「生活体育指導者のための予算は大韓体育会

50%と大田市 50%が出します。しかし両機関が責任をお互いに転嫁ばかりしている」とし「大田市体育会長がホ・テジョン大田市長なので、大田市がこれらの問題を解決するために積極的に取り組まなければならない」と言いました。一方、記者会見を終えた彼らは「生活体育指導者の雇用安定と処遇改善」を要求する 6000 人の大田市民署名をホ・テジョン大田市長室に提出しました。

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20190430148100063?input=1195m>

### 03 中央日報 2019. 5. 2

#### 【 全国体育教師会長「学校体育生かすためには体育特技者制度廃止を」 】

学校体育を有効にするには学校の運動部をスポーツクラブに切り替えて、大学の体育特技者制度を廃止しなければならないという主張が提起されました。ソウル市教育庁が主催した体育特技者制度の改善方案セミナーで出てきた事案です。エリートスポーツ界では常に発生している入学不正と選手暴行・性暴行などの問題を解決するには、体育特技者選考から無くさなければならないということです。

ソウル市教育庁は 3 日午後 4 時 30 分からソウル永登浦国会立法調査所大会議室で「学校体育活性化のための体育特技者制度改善方案セミナー」を開催します。ソウル市教育庁と学校体育振興会・全国体育教師会が共同主管して、スポーツの改革フォーラムが主催する行事です。現行の体育特技者制度の問題点を分析し、実質的な選択肢を見つける学生選手が勉強と運動を並行することができる方法を模索する場です。この席に発表者として出たホ・チャンヒョク全国体育教師会会長（ソウル、モクウン中教師）は事前配布資料で、「運動だけで大学に行けるようにする体育特技者制度が、学生選手が学業をおろそかにして事前スカウトによる各種不正を発生させた」とし「スポーツの底辺を拡大するためには体育特技者制度と学校運動部システムへの新しいアプローチが必要だ」と主張しました。

事実、体育界の入試不正と選手暴行・性暴行などの問題は昨日今日のことではありません。過去 2016 年の国政壟断に浮上し、ろうそくデモの出発点になったのも影の実力者チェ・スンシル氏の娘ジョン・ユラ氏の梨花大の学事不正でした。当時ジョン氏は書類選考締切日以降に受けた金メダルを認められて合格したなどの論議がふくらみました。以後、学事不正問題はほとんど事実で明らかになり、現在ジョン氏は梨花女子大学とチョンダム高入学が取り消され中卒で残っている状態です。

教育部はその後、体育特技者制度の改善案を 2020 年度から体育特技者内の学生部を反映して、大学が恣意的に選考を運営することを防ぐと発表しました。これは最近になって大学も特技者選考を縮小したり、なくす雰囲気です。梨花女子大学は 2019 年度から体育特技者選考を廃止し、高麗大・延世大は 2021 年度から体育特技者選考支援学生に内申や修学能力試験で最低学力基準を適用すると明らかにしました。

しかし、ホ会長はこれだけではスポーツ界の長年の弊害を解決するには力不足だという立場です。現在、学生選手が求められる最低の学歴は無意味なレベルであり、事前スカウトも法律で禁止されているが摘発や処罰が容易ではない状況であるということです。ホ会長は「エリート体育の問題を解決するには、学校運動部の根本的な認識転換が必要だ」とし「体育特技者制度をはじめとする学校運動部の問題が国内スポーツの底辺拡大に障害物として作用しているだけに、学校スポーツクラブを有効にする必要がある」と強調しました。

実際、10 年以上前から行われた学校スポーツクラブ大会はこの間、参加チームと参加学生数が大幅に増え

ました。昨年のソウル市小・中・高の学校運動部は 628 個 9053 人で、今年ソウル市の学校スポーツクラブ大会に参加した学生は 2269 個チーム 3 万 8890 人で、約 4 倍の規模です。ホ会長は「一般的学生が運動に参加して競技を楽しむスポーツクラブの成長は、学校運動部が指向するところを明確に示している」と言いました。

ホ会長が提案した学校スポーツクラブの運営案は、スポーツクラブに参加する学生が学校の正規の教育課程をすべて履修し、校内活動にもれなく参加する形です。また、上級学校に進学する際に学校スポーツクラブの活動が唯一の基準でないようにする方法です。大学の学生選手選抜は特別選考方式で進行するが、運動キャリアだけで選んではいけないということです。ホ会長はこれと共に▶学校運動部の認識転換▶学校の体育施設の拡充▶教師など人材配置▶学校の体育振興会の拡大改編などを提案しました。

\*出典：<https://news.joins.com/article/23457089>

## INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305 号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305 호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : [sports-cm@hanmail.net](mailto:sports-cm@hanmail.net)

ホームページ：<http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 [jr1fep@gmail.com](mailto:jr1fep@gmail.com)